



## 防災備蓄センター新築工事

あらゆる災害から市民の皆さんを守るため、災害用備品を備蓄する防災備蓄センターの建築工事、機械設備工事、電気設備工事が完了しました

今後、大規模な災害が発生した直後の市民生活を確保するため、食料、生活必需品等の備蓄を進めます

なお、防災備蓄センターについては主に二つの特徴を持っています。

1点目は、「想定される最大級の地震での避難生活に備えた施設」です。

市内には、綾瀬川断層帯があり、関東平野北西縁断層帯地震の発生に伴う最大震度は「震度7」になると想定がされております。今後30年以内の地震発生確率は、ほぼ0%~0.008%と高くはないものの、仮に地震が発生した場合、避難所への避難者が最大12,829人に達すると想定がされています。この人数の避難者の食料や生活必需品の備蓄ともなると、相応の置き場の確保が必要となってきますので、起きてはならない最悪の事態を想定した備蓄数量等を設定し、避難者が安心して避難所を利用できることを目指した施設となっています。

2点目は、「環境に配慮し、災害対応に必要な電源の確保をした施設」です。

令和元年房総半島台風では千葉県を中心に甚大な被害を及ぼし、長時間にわたり停電が発生したことは記憶に新しいことと思います。

本市において停電が発生した場合においても、迅速且つ正確に備蓄品を避難所に輸送するため、太陽光発電設備やV2H充電設備を備えた施設となっています。

なかでもV2H充電設備は、本市の公共施設で初めて導入をした設備となっておりまして、万が一の停電時に、電気自動車等に蓄えた電力を防災備蓄センター内で使うことができる設備となっています。

また、市が所有する電気自動車の有効活用を図ると共に、太陽光発電設備等と組み合わせることにより、「鴻巣市ゼロカーボンシティ」の実現に向けた「環境にやさしい施設」となっています。